

# オアシス

医療法人済恵会 広報誌

2024年4月

NO.100



過去のオアシス  
発刊当初はめぐみ

- 2-3P 新年度に向けて  
医療法人済恵会 理事長 須藤 雄仁
- 3P JMAT派遣について  
医療法人済恵会 理事長 須藤 雄仁
- 4-6P 皆様はじめまして  
医師 星野 和男
- 7P 一般病棟のご紹介  
一般病棟看護師長 大堀 由理枝
- 8P 特定行為研修を終えて
- 9P 鎮静下大腸ファイバーのご紹介  
医師 高橋 憲史
- 10-11P IT化の波に向けて  
医療法人済恵会 会長 須藤 英仁

看護師 田島・香取

医療法人  
済恵会

## 須藤病院

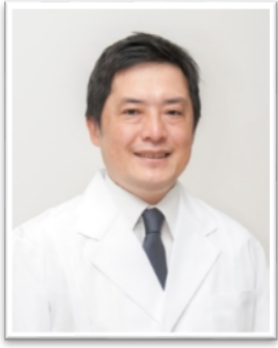
安中市安中3532-5  
Tel 027(382) 3131

介護老人保健施設  
めぐみ

デイサービス  
さくら

居宅介護支援事業所  
こかげ

訪問介護サービス  
ひだまり



# 新年度に向けて

理事長・院長 須藤 雄仁

3月までの寒さも和らぎ、春らしい穏やかな日が続いております。皆様如何お過ごしでしょうか。年度が変わり、当院では令和6年度の新たな体制での診療が始まっております。今年度は8名の新入職員が入職しました。看護師、理学療法士、介護福祉士、医療事務など様々な職種の新入生が、院内に新しい風を吹き込んでくれています。先輩職員達も良い刺激を受けながら、厳しくも愛情を持った指導を行っています。まずは仕事を覚え、それぞれの分野で自身の力を存分に発揮できるよう頑張ってもらいたいと思います。

続いて、診療科に関してご紹介をさせていただきます。乳腺・甲状腺科は星野和男先生をお迎えし、石田常博先生との2人体制で、乳がんや内分泌疾患に対する診療を強化しております。安中市の乳がん患者さんに対しては、がん検診はもちろん診断、手術、抗がん剤治療を含めて当院の果たす役割は非常に大きく、病院として重きを置いている診療科の一つです。今後もさらなる精進を重ね、地域の健康を支えてまいります。

また、毎週木曜日には大腸内視鏡専門医として牧口茉衣先生をお迎えしました。国立がんセンターでの豊富な経験をもつ牧口先生には、女性医師として今まで大腸カメラに抵抗を感じられた患者さんが安心して検査を受けて頂けるようになることを期待しています。月、水、土曜日の群馬大学の大腸専門医による内視鏡診療も継続しています。今後は、より多くの患者さんに大腸がんの早期発見、治療を提供することができると確信しております。

乳がんと大腸がんは、女性のがん罹患数と死亡数でそれぞれ1位の臓器がんであり、患者数は若年層を含めて増加の一途を辿っています。一方でこの2つのがんは、早期発見ができれば十分に治療ができ、治りやすいがんでもあります。早期発見が何より重要です。まずは検診、検査を受けて頂くことが必要です。乳腺科、消化器科でのご相談をお待ちしています。

このほか、今年度は6年に1度の医療、介護の診療報酬同時改定の年であり、6月の改定に向けて様々な事務手続きやスタッフの配置変更等を行っています。改定により受診料、入院料、介護保険料等において患者さんの負担が増すことも考えられます。病院としても、対応には相応の労力、人材や設備の投資が必要となります。しかしこの改定は全国の病院、診療所に対して一律のものであり、変化に乗り遅れば当院の診療(外来で診られる疾患や入院数、配置看護師数など)に影響がでて、結果的に地域の患者さんの負担となってしまうでしょう。地域の皆様の健康を守り、地域の医療ニーズに応え続けるため、努力を惜しまず柔軟に対応していきたいと考えています。

今年度も地域の皆様のご支援とご指導に深く感謝申し上げますとともに、今後も変わらぬご協力を宜しくお願い致します。

## JMATについて

当院では能登半島地震の被災地医療支援のため、JMAT(Japan Medical Association Team)2チームを石川県に派遣することが決定しました。当院所属の医師、薬剤師、看護師、リハビリ、事務員の5人で構成されるチームです。日頃の多忙で多くの疾患を診断治療する当院での診療経験を生かし、被災地支援に力を尽くしてもらいたいと思います。今回立候補してくれたスタッフの熱意と、それを支える病院スタッフの協力に感謝いたします。



## 病院公式SNS是非ご覧ください

※当院SNSに掲載する情報の正確さについては注意しておりますが、公式な情報については当院のホームページをご確認ください。



# 皆様、初めまして

## 乳腺外科 星野 和男

4月から入職した乳腺外科医の星野です。今まで足利市の杏林会今井病院で乳癌治療を行ってきました。国のがん撲滅運動の一環として乳癌についても検診の重要性が広く啓蒙され、毎年乳腺患者数が増加し、癌発見数も右肩上がりの増加傾向にあります。東毛地区では群馬県立がんセンター・足利赤十字病院と今井病院が乳癌治療を担当する代表病院でしたので検診、精密検査、術前化学療法、手術、術後補助治療、再発治療、緩和ケアまで幅広く多くの患者さんと多岐にわたり長期にかかわってきました。年間40例前後の乳がん患者手術をさせていただいていました。これからは当院で石田先生と一緒に多くの職員の方々の協力を得て、乳腺・甲状腺患者を中心とした診療に携わっていきたいと考えていますのでよろしくお願いいたします。

今後の目標としては、

1. 当院を乳癌治療の基点病院としてさらに発展させること。
2. 乳癌学会認定関連施設(年間20例以上の乳癌手術数)にすること。
3. 地域の乳がん検診ネットワークの中核として、地域への信頼関係をさらに強固にすることなどを考えています。

私生活については、高崎市保渡田町で妻と二人暮らしをしており、子供達(長男・長女・二女)は既に独立して家庭を持っています。今年2月には、ためらっていた白内障の手術を眼科医となった二女に背中を押され決断しました。おかげで裸眼視力が両眼とも 1.2 となり、満月の夕には月の表面の「ウサギの餅つき？」が見えたのには感動しました。

人に自慢できる趣味はありませんが、読書・ドライブ・車・映画が好きでオーディオにも一時凝った時期があります。好きな作家は「浅田次郎」「山本兼一」や「原田マハ」等でほぼ全作品を読破しています。また以前の勤務先の足利までは高速道を使い片道50kmもありましたが、出勤時に東毛の丘陵地帯を四季の変化を眺めながらドライブするのはとても気持ち良かったです。

最近、妻からの要望でガーデニングや家庭菜園にも手を染めてイモ類・かぼちゃ・ねぎなど手のかからない野菜を作っていますが、まだ植えたものと雑草の区別にも苦慮している現状です。

アルコールは全くダメですが、付き合いは良い方なので、皆様どうぞよろしくお願いいたします。

# 星野医師へ突撃質問

## 1. 医師になった理由

中学ヒューマニズムにあこがれて

## 2. 医師になって良かったこと

誇りをもって仕事に打ち込めること。人から感謝される喜びを感じられること。

## 3. 一番尊敬している人は

特になし。

## 4. 趣味

読書・オーディオ(古いタンノイのスピーカー(パークレイ)とフランコ・セレブリンのアツコルドは良い音を聞かせてくれています)。

## 5. 一番大切なもの

家族・家

## 6. 名前の由来

叔父につけてもらったとのことですが由来は不明です。

## 7. 須藤病院で乳腺甲状腺外科の志望理由

メス1本で人の運命を変える魔力に憑りつかれたからかも。

## 8. 医師になって理想と現実のギャップは？

手術は100%うまくいくとは限らない。うまくいかなかったときは誠意をもって患者に尽くすことを心掛けている。

## 9. 医療関係ドラマで好きなものはありますか？

ドクターX

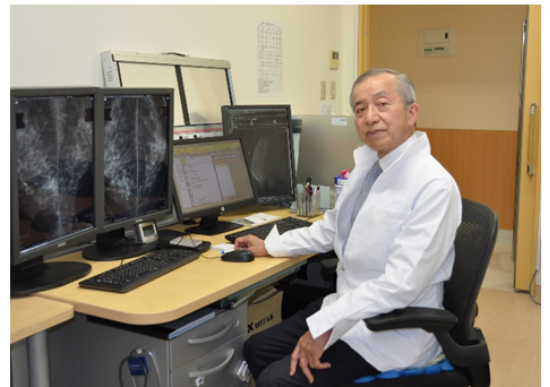
## 10. 医療関係のドラマを見て思うことは？

あまりに劇的過ぎて懂れてしまう。

こんな風にうまくいったら外科医冥利に尽きる。

## 11. 通勤スタイルは？

車。



12. 白衣にこだわりは？

なし。

13. 患者さんに言われて嬉しかった言葉

先生に会うと元気をもらいます。

14. ショックだった言葉

特になし。

15. 自分が病気になった時に思うこと

人生いつ何が起こるか分からない！いつ急変が起きても「いい人生だった」と思える悔いのない毎日を過ごそうと努力したい。

16. ドナーカードを持っていますか？

なし。

17. 献血をしたことはありますか？

なし。

18. もし医師になっていなかったら何をしていたかと思えますか？

商社マン。

19. 口癖はなんですか？

物事はなるようになる

20. 自分を動物に 例えると

うさぎ？

21. 今一番ほしいものは？

タイムマシーン。or 体力回復剤。

22. 質問に答えてみてどうでしたか？

改めて聞かれてみると「普段なんの意識もなく生活しているなあ」と感じました。

23. 最後に皆さんへ一言

乳腺・甲状腺に関するご相談ならなんでもお受けしますので何なりとご相談ください。

どうぞよろしく願いいたします。

# 一般病棟のご紹介

入院時の手続きにご協力頂き、ありがとうございます。入院時にコロナPCR検査を行うと、無症状でもコロナ陽性の方がいらっしゃいます。また面会時間の制限についてもご協力、ご理解いただき、ありがとうございます。3階一般病棟は、須藤病院に入院する時に最初に入院する病棟です。10代から70代のスタッフが働いています。20代のスタッフが多く、明るく、元気な病棟です。外科、整形外科、内科、脳外科、乳腺甲状腺科などの混合病棟で平均在院日数は、13日です。病棟看護師は複数の患者さんを受け持ち、それぞれの疾患・状態などに合わせて異なるケア・対応が求められます。幅広い知識・ケアの技術のほか、必要な情報を整理する情報収集力、優先順位を考えながら行動する判断力、チームで協力して業務を進めるためコミュニケーションを大切にしています。

ますます進む高齢社会の中で、だれもが安心して治療を受け住み慣れた地域やそれぞれのライフスタイルに適した生活の場に戻ることができるよう、入院時から多職種連携で「こころ」「からだ」「くらし」を支える看護を目指して、看護師・看護助手(ナースエイド)共に頑張っています。

医師回診について回っていますので、いつでもお気軽に声掛けください。

一般病棟 看護師長 大堀 由理枝



## 令和5年度特定行為研修終了 研修生より

はじめに、当院は特定行為研修の指定研修機関であり、受講のために他施設へ通う事無く自施設で特定行為実習演習を行えるととても恵まれた環境です。  
またe-ラーニング(オンライン学習)受講後に実習演習を通じて指導者さんや諸先生方から直接ご指導頂き、講義で得た知識を再確認しながら臨床現場で客観的に評価・分析する事が出来ました。  
共通科目は単位受講時間数も多く多忙でしたが、e-ラーニングはスマートフォンやタブレットで隙間時間にいつでも学習を進めることができ、解らないときは何度も見返し学習することで理解を深めることができ良かったです。  
今後は私が得意とするNST(栄養サポートチーム)の介入に対しても医学的根拠をもって患者さんに関わり、摂食嚥下に特化した認定看護師を目指し実践力を高めていきたいと思いをします。

最後に特定行為研修生3期生として共通科目と区分別科目「栄養に係るカテーテル関連」「栄養及び水分管理にかかる薬剤投与関連」の受講に際し、ご協力をいただいた患者さん・指導者・職場のスタッフに、感謝申し上げます。

特定行為看護師 香取司



令和5年度特定行為研修の受講が終了しました。

実施した内容は脱水症状に対する輸液による補正・高カロリー輸液の投与量の調整・末梢留置型中心静脈注射用カテーテル(PICC)の挿入です。

臨時実習では病状経過、身体所見、検査結果から包括的に評価・分析することの難しさを実感しましたが、研修を通して医学的根拠を持って患者さんを深く診ることができました。

今後は脱水や低栄養状態にある患者さんに対して栄養状態を評価し、PICC挿入の必要性があるか検討して実践していきたいと思いをします。更に看護師へのPICC管理方法についても関わっていきたくて考えています。今年度からは特定行為を実施する特定看護師として、研修での学びを臨床現場で活かし、患者さんへ安全に特定行為の実施と看護展開ができるようになりたいと思いをします。

最後に、栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連・栄養に係るカテーテル管理(PICC)関連の2区分を無事に修了でき、患者さん、指導者の先生方、職場のスタッフの皆さんにご協力頂き感謝を申し上げます。

特定行為看護師 田島巧





# 令和6年4月から女性医師2名が加わり、 鎮静下で(寝ながら)大腸カメラが受けられます！

対応疾患:大腸や肛門の癌、ポリープ、腸炎、炎症性腸疾患、大腸憩室、痔など

近年わが国では食生活の欧米化に伴い大腸癌の発生が増加し、癌部位別の死亡数では女性1位、男性2位となっています。(2023年)

大腸癌は早期であれば内視鏡下切除、腹腔鏡下手術で治せることも多く、早期発見が非常に重要です。

大腸癌の早期発見に大腸カメラが必要不可欠です。

また、大腸カメラで比較的多くみられる大腸ポリープの中には成長して癌になるものがあります。当院では、小さなポリープであればその場で内視鏡下に切除し、治療を同時に行うことができます。このほか腹痛や下血を起こす腸炎や憩室炎、痔や脱肛等の疾患にも対応可能です。

2023年の実績は大腸カメラ199件、内視鏡下ポリープ切除134件となっております。

当院で行う内視鏡検査の特長・利点は、入院や手術が可能であり、診断と治療を同時に行うことができる点です。令和6年4月からは女性医師が2名となり、女性の方が躊躇することなく安心して検査ができる体制にあります。

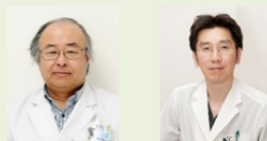
また、去年の4月から、内視鏡検査の鎮静薬が保険適応になったため、当院でも鎮静下(寝ながら行うこと)の胃カメラと大腸カメラを開始しております。

検査ご希望の患者さんをご相談ください。鎮静の場合は、時間枠の都合上前もった予約が必要で、現時点では健診には対応していません。

大腸カメラを胃カメラと同じ感覚で行い、大腸がんの早期発見・治療につなげていきます。

大腸カメラには検査の前処置が必要となりますので、検査の予約につきましては消化器科の受診をお願い致します。

皆様是非ご相談下さい。



消化器科にご相談ください 医師:泉・高橋

2024年新年度

# IT化の波に向けて

医療法人済恵会 会長 須藤 英仁



昨年4月に理事長、院長を須藤雄仁に交代し一年が経過しました。新院長の下、法人職員が一つになって業務を推進している状況を見ることができ、安心して任せられ次世代に繋げられたことは大きな喜びであります。しかし医療はどんなことが起こるかわかりません。困難な時こそ自分の経験を活かし新院長を盛り立てていければと思っております。

さて当院では電子カルテを導入して早くも15年が経過します。IT化には特に力を入れてまいりました。国も昨年から顔認証オンライン資格確認を始め多くの施策を打っております。IT化の波は決して後戻りすることはありません。当院の患者さんは高齢者の方も多くこの波に乗ることは大変かと思いますがどうぞ遠慮せず何度も何度も病院へ来るたびに使ってみてください。IT化についていくにはとにかく実際に自分で使い慣れることです。4月から当院の受付の流れも変わったことに気づかれたと思います。また新紙幣が発行される時期に合わせカード決済対応可能な精算機を導入する予定となっております。コロナ感染症に対する警戒は決して緩めるものではありませんが可能な限り患者さんの利便性を上げていきたいと考えております。



- ①② エントランスの出入り一方通行は廃止になりました。
- ③ 記載台を設置しました。

また当院ではオンライン診療の設備も整えております。これまでは宣伝しませんでした。が勤労者の方で病院へ通院する時間の取れない患者さん、また施設入所中の方で来院できない患者さんなどはスマホがあれば受診可能です。オンライン診療もこれからの大きな流れとなるかもしれません。

日本の少子高齢化社会では人手不足は大変な社会問題です。これを解決するには外国人労働者の受け入れか、高齢者の勤労寿命延伸しかないと思います。健康寿命だけでなく勤労寿命の延伸です。つまり現役労働者の皆さんの健康維持はもちろんのこと、60代・70代のベテラン労働者の皆さんの健康を守る事こそが日本を救う道と考えております。60才を過ぎれば何らかの肉体のひずみは出てきます。しかし早期に発見し的確な治療を継続すれば勤労寿命は伸ばすことができます。私の外来通院者の中には80才以上で農業に従事されている方も珍しくありません。皆さんお元気です。

色々な人生観があるかと思いますが働く喜びこそ人生の喜びであると確信するものです。皆さんでしっかり健康維持に努めましょう。予約診療を始めオンライン診療など当院では患者さんの受診しやすい工夫をこれからも提供してまいりますのでよろしくお願い致します。

## 受付でのマイナンバー保険証利用の お手伝いいたします。

